

SIG 設立趣意書

1. 新設 SIG 名

「研究開発のためのプロジェクトマネジメント」

2. 提案者(発起人) 5名

(発起人出身会社名)
株式会社日立製作所
日産自動車株式会社
日本電気株式会社
株式会社 I H I

3. 活動の目的

研究開発は、イノベーションの基本であり事業創生、事業継続又は拡大には不可欠である。しかし、研究開発から事業化までには、魔の川 (Devil River)、死の谷 (Valley of Death)、ダーウィンの海 (The Darwinian Sea) と言われる困難が待ち受けている。これらの困難を乗り越えて事業を継続することは大変なことであるが、事業化出来れば企業にとって素晴らしい成果が待ち受けている。事業化プロセスの中で、研究開発に焦点を当て、研究開発の成功確率を上げるためにプロジェクトマネジメントを向上させることを活動の目的とする。具体的には、プロジェクトマネジメントに関する開発目標・開発体制・開発プロセス・開発期間・開発費の指標設定に注目して、通常のプロジェクトと研究開発のプロジェクトを比較して研究開発プロジェクトの改善策を提案していく。また、フェーズゲートを設ける考え方も考慮する。

4. 活動内容 (案)

大型研究開発と商品開発に関係する部門所属の PMAJ 会員有志が集い、次のような活動を行う。

第1段階

- SIG 運営方針の確認
- S I G チームメンバー構成と実施内容の確認

第2段階

研究開発プロジェクトの事例紹介を中心にチームビルディングを図る。

- ・大型研究開発 (宇宙開発、航空機、再生エネ開発、大型医療機器、核融合研究他)
- ・商品開発 (ハイテク工業製品、医療機器他)

事例紹介は、主要な指標 (開発目標、開発体制、開発期間、開発プロセス、開発費) に関してプロジェクト開始時の計画と終了時の結果を比較してその相違を明確にすると同時にその相違の原因を明確にする。

第3段階

研究開発の成功確率を上げるためのプロジェクトマネジメントを提言する。例えば、下記の項目で検討する。

- ・ 開発計画書の作り方
- ・ 目標指標の設定方法
- ・ 開発体制の構築方法
- ・ 開発プロセスの決定方法
- ・ 開発期間の設定方法
- ・ 開発費の算出方法

第4段階

「研究開発の成功確率を上げるためのプロジェクトマネジメント」報告書のまとめ

5. 活動成果の PMAJ へのフィードバック

次のような方式を考える。

- ① 活動状況、中間成果短針などの PMAJ ジャーナル、オンラインジャーナルへの発信
- ② 同じく、月例会Bでの発表
- ③ ある程度まとまった活動成果の年次 PM シンポジウムでの発表
- ④ 段階ごとの活動報告書の作成

6. 活動期間

とりあえず2年程度を考える。

7. メンバーの募集方法と運営ポリシー

(1) メンバー募集方法

- ・ PMAJ HPを通じての公募と SIG メンバーとなった方の紹介
- ・ メンバーは基本的に、研究開発部門に所属する方で、次の条件を満たす方
 - 上記活動内容のどれかにインプットを提供できる方
 - 活動の記録を文書化するなど、SIG の運営に貢献できる方

(2) 運営ポリシー

- ・ SIG 会合は月1回、発起人が合意した夜の時間帯に開催とし、中間の意見交換などはe-Mail またはPMAJのグループウェアを使用してで行う。会合はPMAJ並びにSIGメンバーで会議室を提供できる企業を巡回して行う。
- ・ 運営はメンバー間の Give & Take 原則に基づく。
- ・ 情報交換に当たっては、企業機密保護の原則に抵触しないよう留意する。
- ・ 折に触れて SIG 外の知見のある方を招いて創発セミナー・ワークショップを開催する。